# 輸血部における医療安全への取り組み
# 連絡手段にチャットを取り入れ口頭指示を削減しました

## ①輸血はどのようなときに必要になるの？

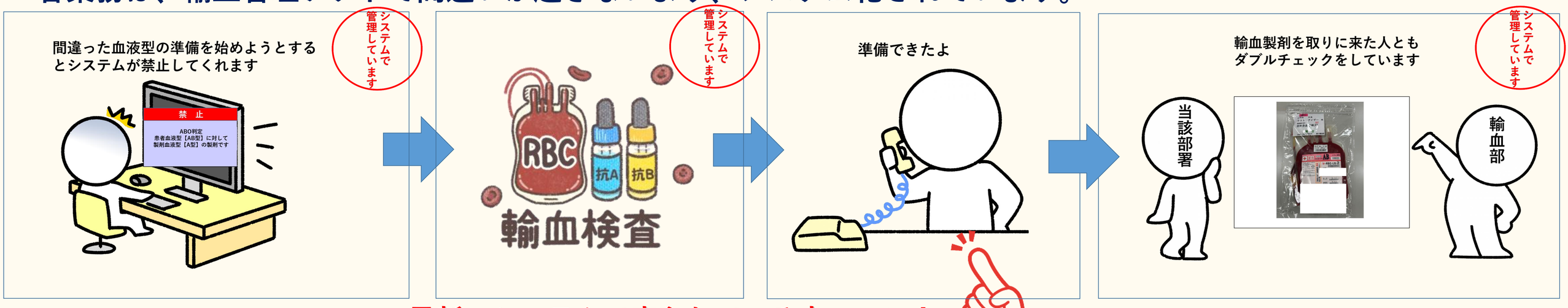
病気や薬の影響などで十分に血液をつくることができなくなったり、事故や手術などで大量出血したときに、輸血が必要です。輸血せずに放置しておくと、息切れや動悸（どうき）、めまいなどが起こったり、出血が止まらなかったりして重症になると死に至ることもあります。

## ②どうやって輸血するの？

輸血を受ける患者さんやご家族には、医療スタッフが輸血の必要性やリスクを説明し、輸血を受けることに関する同意をしていただきます。血液型検査や必要な輸血検査（適合性を確かめる検査）を経て輸血が行われます。

## ③輸血部の役割

私たち輸血部の業務は、輸血用血液の適正な管理や輸血検査を行っています。大まかな業務の流れは以下の通りです。
各業務は、輸血管理ソフトで間違いが起きないよう、システム化されています。

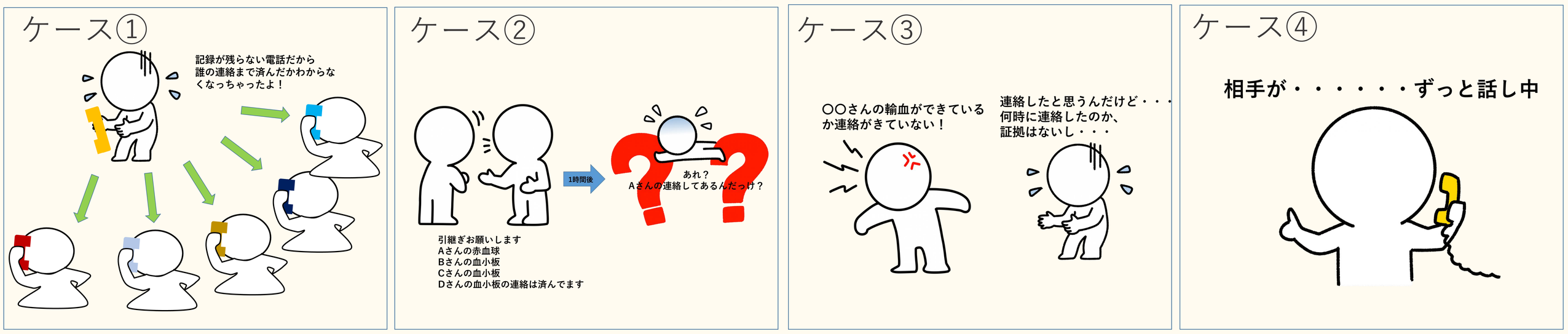



**最新のシステムで守られている中、ここ！**
**電話連絡だけでは記録が残らない、口頭指示伝達のアナログな連絡手段となっていました。**

## ④口頭指示：電話連絡で生じていた問題点

電話が鳴りやまないよ

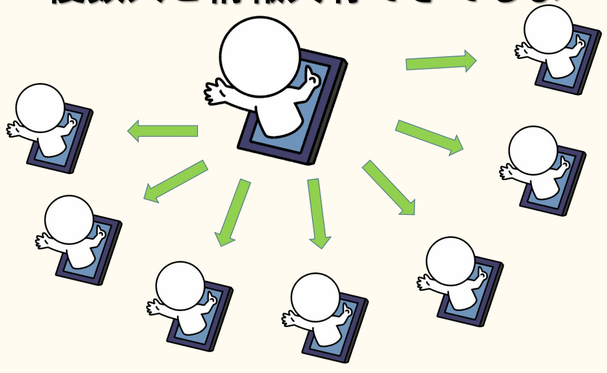
輸血の連絡は1日に平均して20-30件、多い時は**50件**にものぼります。実際に起きた困った事例について紹介します。



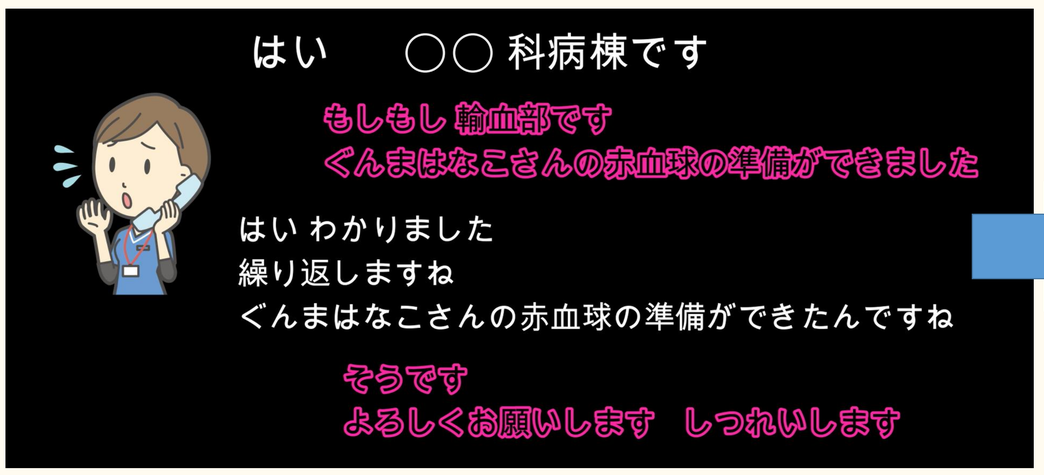

## ⑤我々の考えた対策

少しでも電話を減らせないかな？ということで、院内スマートフォンのチャット機能に注目してみました。
チャットのメリットは、一斉に複数人と共有でき、さらに何時何分までやり取りした時間の記録が残ります。

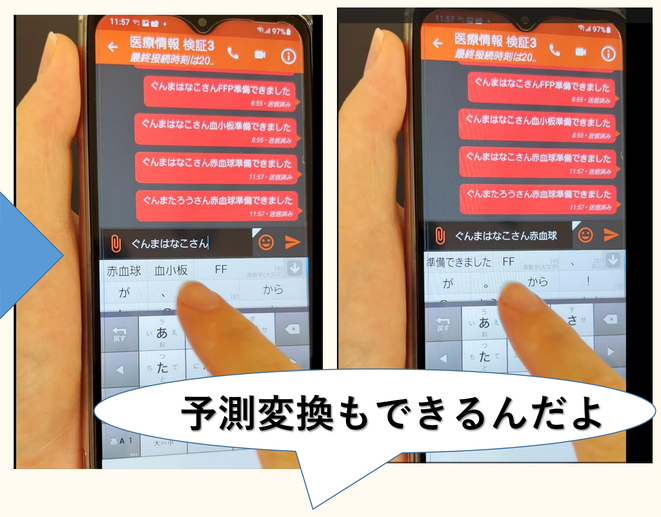
簡単に一斉送信！6秒後には、
複数人と情報共有できてるよ



これまでは、数分要していた作業が




わずか6秒！




## ⑥運用効果

ケース①：誰まで連絡したか記録に頼る必要がなくなりました！
ケース②：引継ぎもばっちり！スマホの履歴を見れば分かります！
ケース③：【連絡した時間】も【連絡を忘れたこと】も記録でばっちり残ります！
ケース④：通話中なんて、まったくないです！

## ⑦これからの展望

輸血部で実施した口頭指示の削減について紹介しました。
この取り組みで、輸血部から各診療科への連絡手段として、口頭指示を削減することができました。
チャットツールを使用することで、メモを取る必要がなく、誤解や聞き間違いを防ぐ効果があります。
しかし、病院全体を見渡すと、まだ口頭での伝達が残っています。
チャットツールの導入から得られる利便性や効果を知って頂き、利用できる場所があれば活用していきませんか？
そのメリットを最大限に活かし、患者さんに対してより質の高い医療を提供できる環境を整えていきましょう。